

たかさぎ能

能

仕舞

半部はじとみ

葵上あおいのうえ

狂言

縄なわなひ 絢あや

能

源氏供養げんじくやう

舞入

観世流

観世流

大蔵流

観世流

下平克宏

梅若晋矢

シテ 山本東次郎

シテ 梅若六郎

アド 山本則重

ワキ 殿田謙吉

一噌隆之

小鼓 鶴澤洋太郎

大鼓 柿原弘和

大鼓 柿原弘和

第23回 たかさぎ能 源氏物語 シリーズ III

平成20年
10月18日[土] 午後2時開場 午後3時開演
午後2時20分より演目解説があります (解説 吉永哲郎)

群馬音楽センター

主催:高崎市/たかさぎ能(新能)実行委員会 共催:(社)高崎観光協会/高崎商工会議所 後援:高崎市教育委員会
お問い合わせ:(社)高崎観光協会事務局 027-321-1257

入場料:前売券 4,000円/当日券 4,500円/学生割引 1,000円(小学生~大学生)
*前売り完売の場合は、当日券の販売をおこないませんのでご了承ください

プレイガイド

群馬音楽センター 027-322-4527/高崎市文化会館 027-325-0681/高崎シティギャラリー 027-328-5050/箕郷文化会館 027-371-7211
新町文化ホール 0274-42-9133/榛名文化会館 027-374-5001/高崎市倉淵支所 027-378-4522/高崎市群馬支所 027-373-1212
ラジオ高崎 027-322-5555/高崎駅西口観光案内所 027-327-9333/(社)高崎観光協会事務局 027-321-1257

午後三時開演 (演目解説は二時二十分より)

〔演目解説〕 吉永哲郎

休憩 (十分)

〔仕舞〕 半 葩 はじとみ

クセ

〔狂言〕

葵 上 あおいのうえ

枕之段

〔能〕

縄 緇 なわなひ

休憩 (十五分)

〔能〕

源氏供養 げんじくよう

舞入

(終了予定 五時十分頃)

縄 緇

博奕好きの主人が大負けしたため、太郎冠者(シテ)が借金のかたにとられることとなります。本当のことを話しても、冠者が素直には博奕相手の何某のもとへいかないだろうと考えた主人は、使いのように装って何某のもとへいかせます。向こうへ着いて初めて真相を知った冠者はつむじを曲げ、命じられた仕事をまったくやろうともしません。怒った何某は主人のもとへ文句をつけにいき、借金を清算せよと迫りますが…。



源氏供養 舞入

安居院(あこい)の法印(ワキ)が近江の石山寺へ向かうと、里の女前(シテ)に呼び止められ、『源氏物語』の供養を頼まれます。法印はこれが紫式部の霊であることを知ります。―中入―法印が石山寺で『源氏』を供養し、紫式部の菩提を弔っていると、式部の霊(後シテ)が現れ、『源氏』を弔ってもらった布施に『源氏』の巻々を織り込んで、世の無常と弥陀(みだ)の救いを語り舞います。法印は式部が石山の観世音の化身であったこと、『源氏』を書いて夢の世を知らしめたことを思います。王朝的美意識と無常観の思想が溶け合った幽玄な能。実際の安居院の法印による源氏供養を題材とし、中世の『源氏物語』観が能となった作品です。今回は小書「舞入」を演じます。



たかさき能とは

今年、『紫式部日記』に源氏物語ゆかりのことが記されてから千年の節目の年。各地で様々な行事が開催され、写本が新たに発見されるなど、まさに「源氏物語千年紀」にふさわしい年となりました。これに先駆け、たかさき能では、平成18年に「夕顔」の巻ゆかりの「半葩」と「葵上」とシリーズでお届けしてまいりました。今年も、作者である紫式部と源氏物語のお話です。

たかさき能は、『市民が盛り上げる文化』として、行政や地元企業、能を愛する市民によって守られています。敷居が高いと思われがちですが、意外にも今の私たちの生活に通じるストーリーが多く、とても親しみやすい演目ばかりです。スタッフ一同、たかさき能を『市民がみんなで伝統文化を学べる場』となる身近なイベントにしたいと願っています。日本人のたしなみとして、ぜひこの機会に、たかさき能に触れてみてください。

第23回 たかさき能 源氏物語 シリーズⅢ

平成20年

10月18日[土] 午後2時開場 午後3時開演
午後2時20分より演目解説があります (解説 吉永哲郎)

群馬音楽センター

■開演後のご入場は出演者及び皆様にご迷惑がかかります。

お時間は必ずお守りください。

尚、お子様のご入場は固くお断り申し上げます。

■一度ご購入頂いた入場整理券の払い戻しは致しません。予めご了承ください。

